

ふじのくに地域・大学コンソーシアム
第3期中期計画
資料編
(2024-2028)

令和6年3月

目 次

第Ⅰ章	ふじのくに地域・大学コンソーシアムの設立	1
第Ⅱ章	これまでの事業実績	3
1	教育連携	3
	(1) 単位互換授業	
	(2) 小中高大連携推進事業	
	(3) 西部地域連携事業(共同授業事業)	
2	共同研究	9
	(1) 共同研究助成事業	
	(2) ふじのくに学共同研究検討事業	
3	地域貢献	10
	(1) 共同公開講座・大学連携講座	
	(2) ゼミ・研究室等地域貢献推進事業	
4	国際交流	12
	(1) 留学生交流	
	(2) 留学フェア	
5	学生支援	15
	(1) 留学生就職支援事業	
	(2) インターンシップ推進事業	
	(3) グローバル人材育成事業	
6	機関交流	18
	(1) 合同FD・SD研修会	
	(2) 西部地域連携事業(FD情報交換会)	
7	情報発信	20
	(1) 地域研究成果発信事業	
	(2) 広報事業	
第Ⅲ章	本編参考資料	
1	人口動態・進学率等の推移	24
2	国や県の政策の方向性	26
3	ふじのくに地域・大学コンソーシアムが実施する各事業に対する 会員の評価	30

第 I 章 ふじのくに地域・大学コンソーシアムの設立

- 1 設立日 平成 26 年 3 月 27 日
- 2 発起人 大学ネットワーク静岡会員（静岡県内 23 の高等教育機関・静岡県）

3 設立趣意

現在、我が国は、少子高齢化の進行や急速なグローバル化の進展など、社会経済の急激な変化に直面しております。

とりわけ、18 歳人口の減少や地域経済の衰退は、大学の経営基盤に大きな影響を及ぼす恐れがあります。

また、大学に対して、地域の知の拠点としての役割も求められており、大学が核となり、地域をリードしていくことに大きな期待が寄せられる一方、地域に対しても、学生を育成・支援する役割が期待されています。

こうした、地域の様々なニーズや期待に十分応えていくためには、大学間連携による教育研究力の向上を図りつつ、大学と地域との連携を強化して、大学の持つ知的資源を積極的、かつ効果的に地域へ還元していくことが重要となっています。

これらの状況を踏まえ、本県の大学間連携組織である「大学ネットワーク静岡」を発展的に改組し、本県の高等教育の一層の向上と地域社会の発展への寄与を目的とする「ふじのくに地域・大学コンソーシアム」を設立することといたしました。

今後、大学間の連携をこれまで以上に深めつつ、大学と地域との連携・協働を促進してまいります。

また、様々な取組において、学生の自主的な参加を促し、異なる大学の学生間や地域の方々との積極的な交流を働きかけて、地域の賑わいを創出しつつ、地域と大学とが一体となって、魅力ある静岡県づくりを目指してまいります。

4 設立時の構成員（平成 26 年度会員）

正会員：静岡県内 23 高等教育機関、静岡県、12 市町

準会員：1 団体

5 設立に至る経緯

平成 15 年 12 月 6 日 大学間連携推進組織「大学ネットワーク静岡」設立

（目的）お互いの自主性を尊重しつつ、切磋琢磨し、個々の大学の魅力をさらに高めるとともに、協力して地域全体の高等教育機能を向上させることにより、優れた人材が集積する知的環境を実現し、もって地域社会の発展に貢献することを目的とする。

（構成員）県内 23 大学

平成 23 年 5 月 16 日 大学ネットワーク静岡内に「大学コンソーシアム設立検討会議」を設置

平成 23 年 1 月 31 日に開催された大学ネットワーク静岡代表者会議において、静岡県から提案のあった「大学連携に向けた取組（案）」を受け、同年 3 月 15 日の代表者会議で設置を決定

（検討事項）他県事例の把握

会員意向調査に基づく共同事業の提案

組織・事務局体制、会費

基本構想案の策定

平成 23 年 10 月 「大学コンソーシアム設立に向けた基本構想」策定

平成 24 年 3 月 16 日 大学コンソーシアム設立準備会議の設置

「大学コンソーシアム設立に向けた基本構想」に基づき、次の事項を協議

- ・コンソーシアムの組織及び運営方法
- ・交流・連携事業
- ・財政基盤
- ・将来構想

平成 25 年 3 月 26 日 平成 24 年度第 2 回大学ネットワーク静岡代表者会議において、社団法人として大学コンソーシアム設立を決定

平成 25 年 6 月 11 日 平成 25 年度第 1 回大学ネットワーク静岡代表者会議において、法人名を「ふじのくに地域・大学コンソーシアム」とすることを決定

平成 26 年 3 月 27 日 平成 25 年度第 3 回大学ネットワーク静岡代表者会議において、一般社団法人ふじのくに地域・大学コンソーシアムへの名称変更（地位の継承）を決定

第Ⅱ章 これまでの事業実績

1 教育連携

(1) 単位互換授業

ア 目的

大学間相互の連携と交流を促進し、教育内容の充実に資するとともに、学生に対して多様な学習機会を提供する。

イ 実績

(ア) 独自型（コンソーシアムが調整）

静岡県の特性を学ぶ授業として、平成 26～27 年度に設置したふじのくに学検討委員会が平成 28 年 3 月に取りまとめた「静岡県の新たな地域学「ふじのくに学」の創出に向けた基本的方向性」に基づいて、座学、フィールドワーク、グループワーク等を取り入れた多彩なカリキュラムで実施してきた。

平成 26 年度は、4 大学の相互協定でスタートし、富士山に係る授業 1 科目であったが、平成 30 年度には、協定校 8 大学等、科目も 3 科目と増加した。

また、平成 31 年度には、協定校 9 大学等、科目も 4 科目と増加するとともに、南大阪地域大学コンソーシアムと広域単位互換協定を締結し、相互の科目の受講が可能となった。その後、令和 2 年度からは科目は 5 科目と増加した。

年度	協定校数	科 目	受入大学	参加大学	学生数
H26	4	富士山の自然と社会（2 単位）	静岡大学	3	45
H27	5	富士山の自然と社会（2 単位）	静岡大学	5	45
H28	7	富士山の自然と社会（2 単位）	静岡大学	5	39
		ふじのくに学（お茶）	静岡県立大学	3	39
H29	8	富士山の自然と社会（2 単位）	静岡大学	3	38
		ふじのくに学（お茶）（2 単位）	静岡県立大学	5	39
H30	8	富士山の自然と社会（2 単位）	静岡大学	2	38
		ふじのくに学（お茶）（2 単位）	静岡県立大学	3	39
		ふじのくに学（観光学）（1 単位）	静岡県立大学	4	20
H31	9	ふじのくに学（富士山の自然と社会）（2 単位）	静岡大学	3	37
		ふじのくに学（お茶）（2 単位）	静岡県立大学	7	47
		ふじのくに学（観光学）（1 単位）	静岡県立大学	3	20
		ふじのくに学（南アルプスの自然）（1 単位）	静岡大学	2	18

年度	協定校数	科目	受入大学	参加大学	学生数
R2	9	ふじのくに学（富士山の自然と社会）（2単位）	静岡大学	中止	
		ふじのくに学（お茶）（2単位）	静岡県立大学	7	60
		ふじのくに学（観光学）（1単位）	静岡県立大学	7	60
		ふじのくに学（南アルプスの自然）（1単位）	静岡大学	6	20
		ふじのくに学（静岡県の産業イノベーション）（2単位）	静岡産業大学	2	20
R3	9	ふじのくに学（静岡県の産業イノベーション）（2単位）	静岡産業大学	5	28
		ふじのくに学（お茶）（2単位）	静岡県立大学	8	40
		ふじのくに学（南アルプスの自然）（1単位）	静岡大学	6	20
		ふじのくに学（富士山の自然と社会）（2単位）	静岡大学	8	49
		ふじのくに学（観光学）（1単位）	静岡県立大学	6	57
R4	9	ふじのくに学（静岡県の産業イノベーション）（2単位）	静岡産業大学	6	24
		ふじのくに学（お茶）（2単位）	静岡県立大学	10	39
		ふじのくに学（南アルプスの自然）（1単位）	静岡大学	4	19
		ふじのくに学（富士山の自然と社会）（2単位）	静岡大学	4	18
		ふじのくに学（観光学）（1単位）	静岡県立大学	6	20
R5	9	ふじのくに学（静岡県の産業イノベーション）（2単位）	静岡産業大学	3	24
		ふじのくに学（静岡県の産業イノベーションⅡ）（2単位）	静岡産業大学	3	21
		ふじのくに学（静岡県の産業イノベーションⅢ）（2単位）	静岡産業大学	2	18
		ふじのくに学（お茶）（2単位）	静岡県立大学	9	40
		ふじのくに学（南アルプスの自然）（1単位）	静岡大学	4	20
		ふじのくに学（富士山の自然と社会）（2単位）	静岡大学	4	20
		ふじのくに学（観光学）（1単位）	静岡県立大学	6	20
		ふじのくに学（伊豆の温泉と産業おこし）（2単位）	静岡県立大学	6	30

(イ) 連携型（既存授業を他大学に開放）

平成 29 年度から、単位互換制度を有効に活用し、協定校の学生の学びの幅を広げるために、連携型の単位互換授業を実施した。

年度	科 目	受入大学	参加大学	学生数
H29	ふじのくに学（世界農業遺産）（1単位）	静岡大学	3	41
	ふじのくに学（雑草学）（1単位）	静岡大学	3	22
H30	ふじのくに学（世界農業遺産）（1単位）	静岡大学	3	21
	ふじのくに学（雑草学）（1単位）	静岡大学	3	33
	ふじのくに学（紅茶）（1単位）	静岡大学	4	38
	ふじのくに学（静岡県の農林業）（2単位）	静岡大学	2	33
	ふじのくに学（植物・微生物間共生学）（1単位）	静岡大学	2	10
H31	ふじのくに学（農林業A：夏編）（2単位）	静岡大学	4	39
	ふじのくに学（演劇論）（2単位）	静岡英和学院大学	4	65
	ふじのくに学（防災）（2単位）	静岡大学	3	26
	ふじのくに学（農林業B：秋冬編）（2単位）	静岡大学	2	39
	ふじのくに学（しずおか）（1単位）	静岡大学	2	107
R2	ふじのくに学（農林業）（1単位）	静岡大学	6	128
	ふじのくに学（演劇論）（2単位）	静岡英和学院大学	6	69
	ふじのくに学（しずおか）（1単位）	静岡大学	7	100
R3	ふじのくに学（演劇論）（2単位）	静岡英和学院大学	5	50
	ふじのくに学（農林業）（1単位）	静岡大学	5	59
	ふじのくに学（森林生態系からの恵み）（1単位）	静岡大学	5	63
	ふじのくに学（しずおか）（1単位）	静岡大学	7	100
R4	ふじのくに学（演劇論）（2単位）	静岡英和学院大学	4	46
	ふじのくに学（農林業）（1単位）	静岡大学	7	86
	ふじのくに学（森林生態系からの恵み）（1単位）	静岡大学	4	25
R5	ふじのくに学（演劇論）（2単位）	静岡英和学院大学	4	35
	ふじのくに学（農林業）（1単位）	静岡大学	7	95
	ふじのくに学（森林生態系からの恵み）（1単位）	静岡大学	4	13

(2) 小中高大連携推進事業

県内の高等学校と大学の連携を深めるため、大学教員を高等学校に派遣し、出張

講義を行うとともに、平成 29 年度からは、高校生が県内の大学を知り、進学の意味などを考える公開イベントを開催した。平成 31 年度からは、進学意欲や高校生活における目的意識を高めるため、高校への大学生出張講座を実施した（令和 3 年度から小中学校に拡大）。

ア 大学教員による出張講義の実績

年度	高校数	講座数	受講者数	主なテーマ
H26	10	12	3,214	<ul style="list-style-type: none"> ・静岡のモノづくり ・防災 ・静岡で学ぶ・働く・暮らす
H27	9	12	2,941	<ul style="list-style-type: none"> ・静岡で働く・暮らす ・ジオパーク ・地域産業 ・防災 ・データと情報 ・静岡の歴史（戦国時代）
H28	14	16	3,394	<ul style="list-style-type: none"> ・大学での学び ・防災（地震、津波、外国人対応 など） ・静岡の歴史（戦国時代） ・企業経営
H29	14	18	1,514	<ul style="list-style-type: none"> ・大学での学び ・防災（地震、津波、外国人対応 など） ・静岡の魅力と課題 ・宇宙 ・静岡から世界へ ・世界遺産と外国人
H30	17	19	1,761	<ul style="list-style-type: none"> ・静岡地域における伝統文化と文化継承 ・伊豆のジオパーク ・静岡学 ・静岡から世界へ・宇宙へ・未来へ ・静岡で学ぶ 静岡で働く ・佐鳴湖の海水・淡水プランクトン
H31	22	26	2,548	<ul style="list-style-type: none"> ・伊豆地域のまちづくり ・静岡の地場産業 ・静岡の観光資源・伝統文化と地域活性化 ・南海トラフ地震と富士山噴火 ・静岡の山間部が抱える課題
R 2	16	16	1,356	<ul style="list-style-type: none"> ・静岡で学ぶ 静岡で働く ・南海トラフ地震 ・伊豆半島ジオパーク ・過疎化が進む地域のまちづくり ・静岡県（富士山）の魅力
R 3	20	20	1,307	<ul style="list-style-type: none"> ・静岡の地場産業 ・世界遺産と外国人への対応 ・静岡県の在来作物 ・遠州の繊維産業 ・静岡県の防災対策
R 4	22	35	2,703	<ul style="list-style-type: none"> ・伊豆半島ジオパーク

年度	高校数	講座数	受講者数	主なテーマ
				<ul style="list-style-type: none"> ・安倍川水系の歴史 ・地震防災 ・静岡県で生産される食品の強み ・天竜地区の森林土壌
R5	9	9	475	<ul style="list-style-type: none"> ・静岡市のまちづくり ・AI や人工知能を活用した地域貢献事例 ・地域課題から東伊豆の未来を考える

イ 大学生出張講座の実績（高校）

年度	学校数	講座数	受講者数	主なテーマ
H31	1	1	34	・大学生生活をイメージしよう
R2	4	5	372	<ul style="list-style-type: none"> ・学生生活、ゼミ活動、県内外への進学 ・大学の授業受験勉強
R3	4	4	204	<ul style="list-style-type: none"> ・高校との違い、大学生活 ・大学での学び、進学動機
R4	11	13	673	<ul style="list-style-type: none"> ・高校ではできない学び、生活 ・進路決定の道筋と大学生活
R5	5	5	152	<ul style="list-style-type: none"> ・大学生活、授業の様子 ・高校生活の過ごし方

ウ 大学生出張講座の実績（小中学校）

年度	学校数	講座数	受講者数	主なテーマ
R3	1	1	103	・大学生と交流しよう
R4	5（うち小学校1）	5（うち小学校1）	334（うち小学校21）	<ul style="list-style-type: none"> ・将来の夢の実現に向けて ・大学生になるまで・大学生になってから
R5	5（うち小学校3）	5（うち小学校3）	236（うち小学校105）	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校時代の夢、力を入れてきたこと ・今後の進路をイメージしてみよう

エ 合同オープンカレッジの実績

年度	イベント名	運営	回数	概要	参加者数
H29	大学での学び体験イベント	（企画）コンソーシアム （実施）ふじのくに留学生親善大使、静岡学生NGO あおい	1回	高校生が数年後のなりたい自分をイメージするきっかけを作るため、大学生とのワークショップを通して、高校までの学びとの違いを体験する。	34
	将来を考えるワークショップ	（企画・実施）NPO法人しずおか共育ネット	1回	高校生が卒業後の将来について具体的に考える機会として、大学生等の体験談を聞き、大学生とともに「働くこと」やキャリアについて考える。	79
H30	謎解きゲーム	（企画）コンソーシ	1回	高校生が、静岡県内の大学に興	51

	in「大学フェア2018」	アム (実施)NPO 法人静岡時代		味を持つきっかけを作るため、県内大学に関する謎解きゲーム。	
	大学生と一緒に考えるワークショップ in「進学相談会」	(企画・実施)リンクビジネスカレッジ、Beyond School、Buddy Program	4回	高校生が、進学意欲を高めたり、大学生活やその先のキャリアについて考えたりする機会にするため、大学生と将来について考えるワークショップ。	54
H31	実学チャレンジフェスタ	静岡県教育委員会	1回	県内の実学系高校が学習成果を発表や展示、物品販売し、その活躍を県民に直接アピールするイベントで、本年度初めて当法人がブース出展し、小学生から高校生、またその家族に対し、ゼミ活動を切り口に大学を知る機会を提供。	214
R2	—	—	—	—	—
R3	—	—	—	—	—
R4	—	—	—	—	—
R5	—	—	—	—	—

(3) 西部地域連携事業（共同授業事業）

7大学を協定校として、共同授業を実施した。なお、毎年、8回の講座のうち1回を、市民向けの特別公開講座として開放した。

年度	テーマ	期 間	会 場	学生数
H26	「人間と環境」地域発の新しい価値観の創造	10月4日～12月6日のうち8土曜日	静岡文化芸術大学	125
H27	人間と環境—ネット社会と生活—	10月3日～12月5日のうち8土曜日	静岡文化芸術大学	92
H28	人間と環境 —心身の健康—	10月1日～12月3日のうち8土曜日	静岡大学 浜松キャンパス	96
H29	人間と環境—人間・環境・倫理— 今求められる倫理—	10月7日～12月23日のうち8土曜日	静岡文化芸術大学	131
H30	「人間と環境」～『人にやさしい』環境づくり、『環境にやさしい』人づくり～	10月6日～12月8日のうち8土曜日	静岡大学 浜松キャンパス	83
H31	「人間と環境」—物理社会を飲み込んだインターネット—	10月5日(土)～12月21日(土)のうち8土曜日	静岡文化芸術大学	88
R2	(COVID-19により中止)	—	—	—
R3	「人間と環境」～静岡の未来とSDGs～	10月2日(土)～12月4日(土)のうち8土曜日	静岡文化芸術大学	109

R4	「人間と環境」～「古い・病・死」の現在・過去・未来～	10月1日～12月10日のうち8土曜日	静岡大学浜松キャンパス	87
R5	「人間と環境」～コロナ禍によってもたらされた変容～	10月7日(土)～12月9日(土)のうち8土曜日	静岡文化芸術大学	78

2 共同研究

(1) 共同研究助成事業

県内大学の学術研究への助成を通じて、本県の大学と大学及び大学と地域の連携を促進し、大学の学術研究の向上及び地域貢献の推進を図るため、県内大学の研究者又は研究グループが行う研究に対して助成を行った。

※令和4年度からは研究グループのみに助成。

年度	応募数	採択数	備考
H26	21	4	実験系：1件、非実験系：3件
H27	31	6	実験系：2件、非実験系：4件
H28	16	6	ふじのくに学：2件、地域課題：4件
H29	19	7	ふじのくに学：1件、地域課題：8件
H30	22	7	ふじのくに学：4件、地域課題：3件
H31	30	9	ふじのくに学：4件、地域課題：5件
R2	28	8	実験系：4件、非実験系：4件
R3	27	6	実験系：3件、非実験系：3件
R4	12	2	実験系：1件、非実験系：1件
R5	—	—	(事業休止)

(2) ふじのくに学共同研究検討事業 (H27. 1～28. 3)

地域の活性化に寄与するため、静岡県の特異性・優位性を明らかにする「ふじのくに学」として、新たな地域学の創出及び体系化の取組の検討を行う「ふじのくに学」共同研究検討委員会を設置した。

ア 検討委員会

- ・検討委員：4人（企画運営委員からの推薦）
- ・任期：平成27年1月～平成28年3月
- ・検討事項：ふじのくに学の素材となる本県ならではのテーマ選定
本県の特異性・優位性を明らかにするための比較研究の方法
研究成果の活用及び発信の方法
- ・検討経過

開催回	日程	内容
第1回	H27年1月27日	研究の方向性について 検討組織について
第2回	H27年2月24日	取組の方向性 個別研究テーマの検討

第3回	H27年3月20日	ふじのくに学創設に向けた取組
第4回	H27年12月2日	ふじのくに学創設に向けた取組のまとめ
第5回	H28年3月1日	ふじのくに学創設に向けた基本的方向性について

検討結果は、H28年度第1回企画運営委員会及び理事会で報告

イ 公開講座「ふじのくに学(お茶)」の開催

趣旨：ふじのくに学（お茶）の開設準備にあたり、一般（学生可）対象の公開講座を開催する。

概要

日 程	会 場	内 容	参加者数
H27年2月22日	静岡市産学交流センター	静岡茶業の形成(座学) 世界の茶・日本の茶(座学)	33
H27年2月23日	藤枝市茶商工業組合	茶手揉演習(実習) 茶の入れ方の理論と演習(実習)	31
H27年2月24日	静岡市産学交流センター	茶の機能性成分と最新情報(座学) 機能性食品としての茶の役割(座学)	33

※参加実人員：41人

3 地域貢献

(1) 共同公開講座・大学連携講座

複数の大学が共同で、静岡県の魅力発信、地域振興に資する内容等をテーマに、大学が持つ知識等を市民に広く還元した。

平成26・27年度は県委託事業として、28年度からは各大学からの提案を受け、大学への委託事業として実施した。

年度	講座名	企 画	回数	場 所	参加者数
H26	「人間と環境」 地域発の新しい価値観の創造	西部地域連携事業実施委員会	8	浜松市	115
	学生の力で地域資源を探して・活かそう！	常葉大学、静岡大学、静岡市	3	静岡市	556
	静岡の食を支える農の6次産業化と地域振興	静岡文化芸術大学、常葉大学、浜松市、企業等	1	浜松市（静岡文化芸術大学）	90
	今私たちができる「地域」づくり	静岡県立大学、学生団体静岡2.0	2	沼津市・牧之原市	90
H27	地方創生市民シンポジウム	静岡大学	2	浜松市	426
	クオリティ・オブ・ライフ～地方都市で暮らす魅力	常葉大学	3	静岡市	180
	富士山が与える駿河湾の豊かさ-地域連携型洋上セミナー	東海大学海洋学部	1	富士市	58
	よく噛んで、美味しく食べて、元気なからだ-咀嚼が創る健康長寿-	静岡県立大学	3	静岡市	52

年度	講座名	企画	回数	場所	参加者数
	第4回静岡2.0フォーラム- 今、私たちができる「地域」 づくり-	静岡県立大学	2	静岡市・島田市	80
	連続講座「いのちを考える」	放送大学静岡学 習センター	3	静岡市	84
	多文化共生都市をデザインす る	浜松学院大学	1	浜松市	64
H28	双方向型コミュニケーションによる協働-地域課題の解 決に向けたユースの力-	常葉大学・静岡大 学・静岡文化芸術 大学	3	藤枝市・静岡市	190
	静岡建築茶会	静岡理工科大学・ 静岡文化芸術大 学	3	浜松市・掛川市・静 岡市	118
	第5回静岡2.0フォーラム- 今、私たちができる「地域」 づくり-	静岡県立大学・静 岡大学	2	沼津市・静岡市	36
H29	少子化・グローバル化によ る社会の変容と地域間ネッ トワーク・デザイン	常葉大学・静岡文 化芸術大学・静岡 産業大学	3	静岡市・掛川市	120
	地域防災・減災と大学	静岡文化芸術大 学・浜松医科大学	3	浜松市	141
	静岡建築茶会 2017 ～Shizuoka Architectural Tea Break 2017	静岡理工科大学・ 静岡文化芸術大 学	2	浜松市・富士市	32
H30	静岡建築茶会 2018 建築環 境デザインを科学する！～ 光・温熱・気流と人々の関 係～	静岡理工科大学・ 静岡文化芸術大 学	3	袋井市・浜松市・静 岡市	105
	静岡で知っておきたい地震 と火山と防災	静岡県立大学・東 海大学・静岡大学	4	裾野市・静岡市・下 田市	530
H31	しずおかいきもの講座	静岡大学、常葉大 学、東海大学海洋 学部	4	富士市、菊川市、静 岡市、静岡市	298
	明日の”介護”を創るために ～ふじのくにの地域共生を 語ろう～	静岡福祉大学・聖 隷クリストファ ー大学	3	焼津市、浜松市、沼 津市	134
R2	子どものためのネット・ゲー ム依存防止講座	浜松学院大学・静 岡大学・浜松医科 大学	3	富士市、浜松市、オ ンラインのみ(浜 松市より配信)	170
	翁と童のコラボレーション	静岡福祉大学・静 岡英和学院大学	1	オンラインのみ (焼津市より配信)	44
R3	—	—	—	—	—
R4	—	—	—	—	—

年度	講座名	企画	回数	場所	参加者数
R5	—	—	—	—	—

(2) ゼミ・研究室等地域貢献推進事業

自治体から提示された地域課題のための研究などを行う県内大学のゼミ及び県内学生により組織された団体を対象に、助成を行った。

年度	応募数	採択数	備考
H26	32	20	自治体からの指定課題：7件、自由課題：13件
H27	40	19	自治体からの指定課題：15件、自由課題：4件
H28	21	21	自治体からの指定課題：9件、自由課題：12件
H29	31	25	自治体からの指定課題：16件、自由課題：9件
H30	46	26	自治体からの指定課題：24件、自由課題：2件
R1	50	25	自治体からの指定課題：22件、自由課題：3件
R2	37	25	自治体からの指定課題：22件、自由課題：3件
R3	59	27	自治体からの指定課題：24件、自由課題：3件
R4	49	32	自治体からの指定課題：27件、自由課題：5件
R5	41	25	自治体からの優先課題：26件、提案課題：9件、ゼミ・研究室からの自由課題：6件

4 国際交流

(1) 留学生交流

事業平成27年度から、静岡県留学生支援ネットワークを引き継ぎ、留学生支援事業実施委員会として実施した。(13教育機関及び静岡県、静岡県行政書士会、その他賛助会員)

留学生間や留学生と日本人学生との交流促進を図り、互いの異文化への理解を深めるための交流バスツアーや、交通安全・生活ルール講座、日本語検定助成等を行った。

ア 交流バスツアー

年度	留学生	日本人学生	合計	回数	行き先(内容)
H27	96	35	131	2回	・防災と浴衣体験(静岡市) ・富士山トレッキング、白糸の滝等
H28	31	20	51	1回	掛川可睡齋他
H29	55	27	82	1回	伊豆パノラマパーク他

年度	留学生	日本人学生	合計	回数	行き先（内容）
H30	26	18	44	1回	川根本町三ツ星キャンプ場他
H31	23	21	44	1回	清水駅前商店街他
R2	19	10	29	2回	茶摘み体験、座禅体験他
R3	15	11	26	2	浜名湖クルーズ、SPAC観劇他
R4	10	7	17	1	三保の松原他
R5	16	4	20	1	防災、食品サンプル製作体験他

イ 交通安全・生活ルール講座

年度	参加人数	開催回数	備考
H31	220	2	浜松中央警察署、静岡南署の交通安全指導員を招聘
R2	50	1	オンライン実施。静岡南署の交通安全指導員を招聘
R3	8	1	オンライン実施。静岡南署の交通安全指導員を招聘。アーカイブ視聴実施。
R4	10	1	オンライン実施。JAFを招聘。アーカイブ視聴実施。
R5	14	1	オンライン実施。静岡南署の交通安全指導員を招聘。アーカイブ視聴実施。

ウ 日本語検定助成

年度	助成人数	備考
R2	18	COVID-19の影響により試験が年1回前期のみ実施。
R3	62	
R4	54	
R5	48	

(2) 留学フェア

県内大学等への留学生受入促進を図るため、静岡県等と連携して国内外の留学フェアに参加し、県内大学等の情報を発信した。令和2年からコンソーシアム自前のフェアを実施した。

ア 海外におけるフェア

年度	開催国等	日程	相談件数	備考
H26	台湾（高雄・台北）	7月19・20日	65	JASSO日本留学フェア内

	インドネシア(ジャカルタ)	10月19日	100	JASSO日本留学フェア内
	タイ(バンコク)	11月22日	17	静岡県就職・留学フェア
H27	インドネシア(ジャカルタ)	11月15日	87	JASSO日本留学フェア内

年度	開催国等	日程	相談 件数	備考
H30	インドネシア(ジャカルタ)	9月30日	90	JASSO日本留学フェア内
	ベトナム(ホーチミン、ハノイ)	10月6・7日	100	JASSO日本留学フェア内
H31	ベトナム(ホーチミン、ハノイ)	10月5・6日	246	JASSO日本留学フェア内
	インドネシア(ジャカルタ)	11月24日	194	JASSO日本留学フェア内
R2	ベトナム(オンライン)	12月18日	72	コンソーシアム独自
R3	ベトナム(オンライン)	12月18日	31	コンソーシアム独自
	インドネシア(スマトラ・メダン)	2月20日	12	コンソーシアム独自
R4	インドネシア(オンライン)	9月5日、 12月12日	121	コンソーシアム独自
	ベトナム(オンライン、ホーチミン)	10月4日、 2月24日	166	コンソーシアム独自
	スリランカ(オンライン)	8月2日、 2月28日	181	コンソーシアム独自
R5	ベトナム(ホーチミン、ハノイ)	11月25・26日	147	JASSO日本留学フェア内
	インドネシア(オンライン)	9月22日、 1月9日	280	コンソーシアム独自
	ベトナム(オンライン、ホーチミン)	8月31日、 11月24日	110	コンソーシアム独自
	スリランカ(オンライン)	11月17日、 2月15日	113	コンソーシアム独自

イ 国内におけるフェア

年度	開催場所	日程	相談 件数	備考
H28	ツインメッセ静岡	7月20日	15	日本語学校の生徒を主な対象とする進学相談会内

H29	ツインメッセ静岡	7月26日	59	日本語学校の生徒を主な対象とする進学相談会内
R2	オンライン	7月18日、 12月12日	286	コンソーシアム独自
R3	オンライン、AOI(対面)	7月10日、 7月24日	270	コンソーシアム独自
R4	オンライン、AOI(対面)	7月9日、 7月23日	111	コンソーシアム独自
R5	オンライン、グランシップ(対面)	7月8日、 7月22日	118	コンソーシアム独自

5 学生支援

(1) 留学生就職支援事業

平成27年度から、静岡県留学生支援ネットワークを引き継ぎ、留学生支援事業実施委員会として実施した。(12教育機関及び静岡県、静岡県行政書士会、その他賛助会員で組織)

留学生の県内企業への就労を支援するため、企業交流会、インターンシップ及び求人・求職マッチングの他、留学生就職支援講座等を委託により実施した。

平成29年度から令和3年度までは一部事業を文部科学省委託事業「留学生就職促進プログラム」(静岡大学受託事業)の一部を再受託事業として実施した。

ア 企業交流会

年度	開催回数	参加学生数				参加企業
		留学生	日本人学生	在日外国人	合計	
H27	3回	48	44	—	92	43
H28	3回	91	48	—	139	45
H29	4回	128	114	8	250	97
H30	4回	165	66	4	235	68
H31	3回	157	38	—	195	61
R2	3回	94	4	—	98	24
R3	3回	82	19	—	101	23
R4	3回	121	5	—	126	29
R5	3回	135	12	—	147	38

イ インターンシップ及び求人・求職マッチング

(単位:人)

年度	項目	実施社数	実施人数	正社員採用	アルバイト採用
H27	インターンシップ	4	4		
	求人・求職マッチング	9	11	2	2
H28	インターンシップ	5	12		
	求人・求職マッチング	15	23	5	3
H29	インターンシップ	11	24		
	求人・求職マッチング	8	13	5	0
H30	インターンシップ	10	15		
	求人・求職マッチング	8	12	6(うち契約1)	2
H31	インターンシップ	7	12		
	求人・求職マッチング	6	9	6	0
R 2	インターンシップ	5	10		
	求人・求職マッチング	6	10	5	1
R 3	インターンシップ	5	11		
	求人・求職マッチング	7	12	4	0
R 4	インターンシップ	5	11		
	求人・求職マッチング	7	12	4	0
R 5	インターンシップ	7	16		
	求人・求職マッチング	11	18	12	0

ウ 留学生就職支援講座

*参加学生数(単位:人)

年度	説明・OB体験	ビジネスマナー講座	企業訪問	合計
H27	10	14	19	43
H28	13	10	23	46
H29	42	7	27	76
H30	86	28	28	142
H31	128	22	17	167
R 2	107	23	-	130
R 3	151	32	6	189
R 4	138	21	9	168
R 5	127	13	47	187

(2) インターンシップ推進事業 ※静岡大学 COC⁺事業

参加大学: 静岡大学、常葉大学、静岡理工科大学、静岡英和学院大学・同短期大学部、東海大学短期大学部(その他産業界3)

ア 企業向け説明会

年度	開催回数	参加者数	開催場所
H27	1回	39	静岡市
H28	3回	112	沼津市・静岡市・浜松市
H29	3回	135	沼津市・静岡市・浜松市
H30	3回	78	沼津市・静岡市・浜松市

イ インターンシップマッチング会

年度	開催回数	参加者数	参加企業数	開催場所
H26	2回	74	18	東部・中部
H27	5回	327	74	静岡理工科大学 静岡大学静岡キャンパス 静岡大学浜松キャンパス 常葉大学静岡キャンパス水落校舎 静岡文化芸術大学
H28	7回	743	129	静岡理工科大学 沼津工業高等専門学校 静岡大学浜松キャンパス 常葉大学静岡キャンパス水落校舎 静岡大学静岡キャンパス 沼津工業高等専門学校 静岡文化芸術大学
H29	7回	569	140	沼津工業高等専門学校 静岡大学浜松キャンパス 沼津工業高等専門学校 常葉大学静岡キャンパス水落校舎 静岡大学浜松キャンパス 静岡大学静岡キャンパス 静岡文化芸術大学
H30	6回	574	127	沼津工業高等専門学校 静岡文化芸術大学 静岡大学浜松キャンパス 常葉大学静岡草薙キャンパス 沼津工業高等専門学校 静岡大学静岡キャンパス

ウ 専門人材養成研修会

年度	テーマ	参加者数
H26	インターンシップとキャリア教育	21
H27	中長期インターンシップ・地域産業連携インターンシップ・有償型インターンシップ	74
H28	教育的効果の高いインターンシッププログラムの開発と実施	29
H29	大学と企業がともに考える教育的効果の高いインターンシッププログラム	45
H30	産学協働による教育的効果の高いインターンシップを目指して	50

エ 企業見学バスツアー（浜松市・浜松商工会議所と共催）

年度	回数	参加者数	参加企業数	テーマ
H28	2回	21	6	機械・材料で活躍する仕事 電気・電子で活躍する仕事
H29	3回	34	9	浜松を元気にする仕事 機械・材料で活躍する仕事 電気・電子で活躍する仕事
H30	4回	40	8	地域に貢献する企業、浜松を元気に する企業浜松のものづくり企業 エンジニアの仕事 企画・販売・営業の仕事

オ ワークラリーしずおか

各学生はマッチング会にて希望企業との面談やマナー講座などの事前学習を経て、インターンシップに参加した。

年度	参加者数	参加企業数
H28	133	287
H29	123	244

(3) グローバル人材育成事業

未来の静岡県を担うグローバル人材の育成を目指し、本県高等教育機関に在籍する日本人学生で、海外留学を希望する優秀な者に奨学金を給付し、海外留学を支援した。

国の「トビタテ！留学 JAPAN」は令和2年度で終了した。令和4年度から県独自の奨学金プログラムである「ふじのくに留学応援奨学金」事業を開始した。

年度	応募者数	合格者数	合格者在籍大学
H29	19	5	静岡大学、静岡県立大学2、静岡文化芸術大学、常葉大学
H30	7	6	静岡大学3、静岡県立大学、常葉大学、沼津工業高等専門学校
H31	10	4	静岡大学2、静岡県立大学、常葉大学、
R4	3	3	静岡県立大学、静岡文化芸術大学、常葉大学
R5	14	4	静岡大学3、静岡県立大学

6 機関交流

(1) 合同FD・SD研修会

大学職員の資質向上のため、合同でFD・SD研修を行った。

年度	内 容	場 所	参加者数
H27	大学職員 SD 研修会 講演「職場における『三遊間のゴロ』その対策を考える～他大学等との職員との交流によって得られるもの」 講師：首都大学東京 教務課職員	静岡県立大学	43
H28	① 講演「教育者としての持続可能な大学広報と学生募集」、キャンパス見学、意見交換	静岡文化芸術大学	60
	② 「地域と大学」 事例発表、キャンパス見学、意見交換	常葉大学静岡キャンパス水落校舎	42
H29	① 「自己能力開発とモチベーション」 講演、意見交換	もくせい会館	42
	② 「大学連携で静岡県からの人口流出を防ぐ～大学進学前にできること」 ミニ講演、グループワーク、キャンパス見学、意見交換	静岡産業大学磐田キャンパス	41
	全国の公立大学 SD フォーラム合宿に共催協力	静岡市	4
H30	① シンポジウム「静岡県の大学の将来像を探る」	グランシップ	179
	② ワークショップ「大学のリスクマネジメントを考える～台風 24 号の被害をもとに～」	静岡英和学院大学	49
	県内大学で障害学生支援を担当する教職員で構成する関係者会を支援 ・講演会「発達障害のある学生の理解と支援」 ・障害学生支援関係者会の開催（10 校、28 人）	静岡大学 静岡キャンパス 浜松キャンパス	93 52
	全国の公立大学 SD フォーラム合宿に共催協力	静岡市	3
H31	経験年数の少ない大学職員を対象とした基礎研修	静岡産業大学	60
R 2	① 「高等教育における教養レベルの数理・データサイエンス教育を考える」（静岡大学と共催）	オンライン（ZOOM）	85
	② 「コロナ克服後、再び大学教育が危機的状況に直面したときの構え」	オンライン（ZOOM）	42
R 3	① 中堅職員を対象としたヒューマンスキル研修	オンライン（ZOOM）	33
	② 「これからの大学間連携について考える～他地域コンソーシアムの好取組から学ぶ～」	オンライン（ZOOM）	44
R 4	① 「高等教育機関における発達障害のある学生の受入れ、修学・生活支援及び就職支援」	もくせい会館 （講義のみ、オンライン及びアーカイブを併用）	97
	② 『自分起点で始める！大学等の事務効率化とDX』	オンライン及びアーカイブ	124
R5	① ChatGPT 等生成系 AI の台頭と大学現場への影響～入門編～	オンライン	178
	② 静岡県における生成 AI 利用の取り組み	オンライン	87

(2) 西部地域連携事業（FD情報交換会）

年度	内 容	場 所	参加者数
H26	講演「教育課程の体系化」 講師：静岡理工科大学長 野口博	静岡文化芸術大学	22
H27	講演「FD活動の取組み」 講師：静岡産業大学経営学部 教授 牧野好洋、 講師 熊王康宏	静岡産業大学	20
H28	講演「FD活動の取組み～聖隷クリストファー大学の事例～」 講師：社会福祉学部社会福祉学科長 佐藤順子 看護学部助教 村松美恵 リハビリテーション学部准教授 吉本吉延	聖隷クリストファー大学	36
H29	講演「FD活動の取組み」 講師：文化政策学部准教授 四方田雅史 文化政策学部教授 岡田建志 デザイン学部教授 中山定雄 文化政策学部教授 立入正之 文化政策学部准教授 高木邦子	静岡文化芸術大学	22
H30	講演「教育の内部質保証について」 講師：静岡大学大学教育センター准教授 須藤智	静岡大学浜松キャンパス	17
H31	意見交換会を開催 ①出席管理について ②アセスメントポリシーについて ③SD義務化について	常葉大学浜松キャンパス	12
R 2	構成大学から報告 ①新型コロナウイルス感染症に伴う施設利用や講義における対策・対応について ②遠隔講義措置に対する学生へのフォローアップについて ③ 教職員研修について	浜松学院大学	21
R 3	講演「コロナ禍での障害学生支援について」 講師：静岡大学学生支援センター准教授 生川友恒 質疑応答及び意見交換 (各大学のコロナ禍での障害学生支援及び授業実施について)	静岡大学浜松キャンパス	16
R 4	意見交換 ①国の高等教育施策について ②コロナ禍での授業実施について ③新型コロナウイルスの影響による学生の学修状況や将来への不安に対する対処 ④経常的教務業務におけるケースワーク	静岡理工科大学	17
R 5			

7 情報発信

(1) 地域研究成果発信事業

「ゼミ・研究室等地域貢献推進事業」及び「共同研究助成事業」等の成果を発表するための「ふじのくに地域・大学フォーラム」を開催した。

年度	内 容	日・場所	参加者数
H26	・ゼミ学生地域貢献推進事業成果発表会	平成27年2月23日 もくせい会館	160
H27	・ゼミ学生地域貢献推進事業の成果発表 ・学術研究助成採択事業の成果発表 ・ゼミ課題に対応したワークショップの開催 ・学生による静岡県カレッジサミット など	平成28年2月27日 静岡県立大学	200
H28	・ゼミ学生地域貢献推進事業の成果発表 ・共同研究助成事業の中間発表 ・短期集中互換授業の発表 ・留学生支援サークル交流会議等の発表 など	平成29年2月18日 静岡文化芸術大学	280
H29	・ゼミ学生等地域貢献推進事業の成果発表 ・共同研究助成事業の中間発表 ・高大連携をテーマとする高校生によるプレゼン発表、ポスター発表 ・若手地域イノベーター等によるパネルディスカッション など	平成30年2月17日 日本大学国際関係学部三島駅北口校舎	350
H30	・ゼミ学生等地域貢献推進事業の成果発表 ・共同研究助成事業の中間発表 ・静岡県ハイスクールボランティアアワードの受賞高校生によるプレゼン発表、ポスター発表 ・海外留学コーナー など	平成31年2月16日 常葉大学静岡草薙キャンパス	428
H31	・ゼミ学生等地域貢献推進事業の成果発表 ・共同研究助成事業の中間発表 ・高校生の発表 ・その他の学生団体の取組発表 ・「ロゴマーク」優秀賞の表彰式 など	令和2年2月8日 静岡理工科大学	286
R2	・ゼミ学生等地域貢献推進事業の成果発表 ・共同研究助成事業の中間発表 ・高校生の発表 ・大学生座談会「オンライン授業の可能性と未来、大学生のリアルな声を聴く」 ・留学生による日本語スピーチと交流会	令和3年2月13日 オンライン(静岡市より配信)	332
R3	・ゼミ学生等地域貢献推進事業の成果発表 ・共同研究助成事業の中間発表 ・高校生の発表 ・外国人留学生による日本語スピーチリレー	令和4年2月11日 オンライン(静岡市より配信)	142

年度	内 容	日・場所	参加者数
R 4	<ul style="list-style-type: none"> ・ゼミ学生等地域貢献推進事業の成果発表 ・共同研究助成事業の中間発表 ・高校生の発表 	令和5年2月11日、12日 静岡産業大学藤枝駅前キャンパス(オンラインを併用)	297
R 5	<ul style="list-style-type: none"> ・ゼミ・研究室等地域貢献推進事業の成果発表 ・共同研究助成事業の中間発表 ・高校生の発表 	令和6年2月10日 静岡文化芸術大学	205

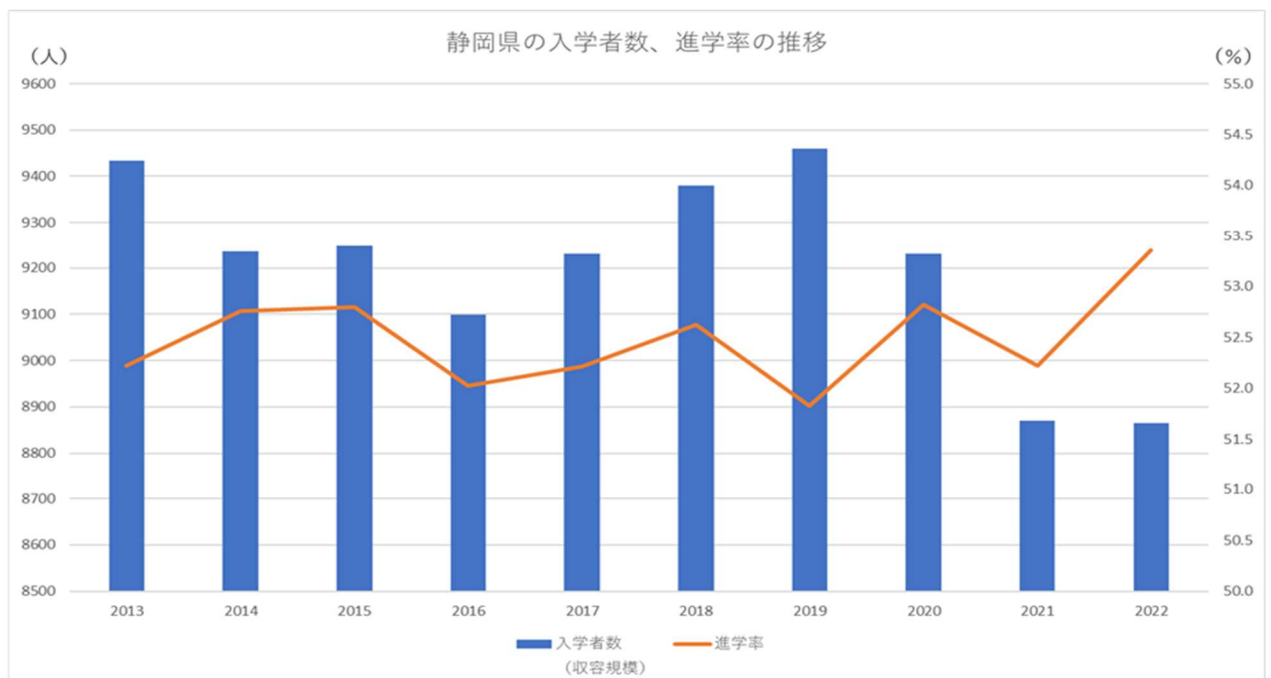
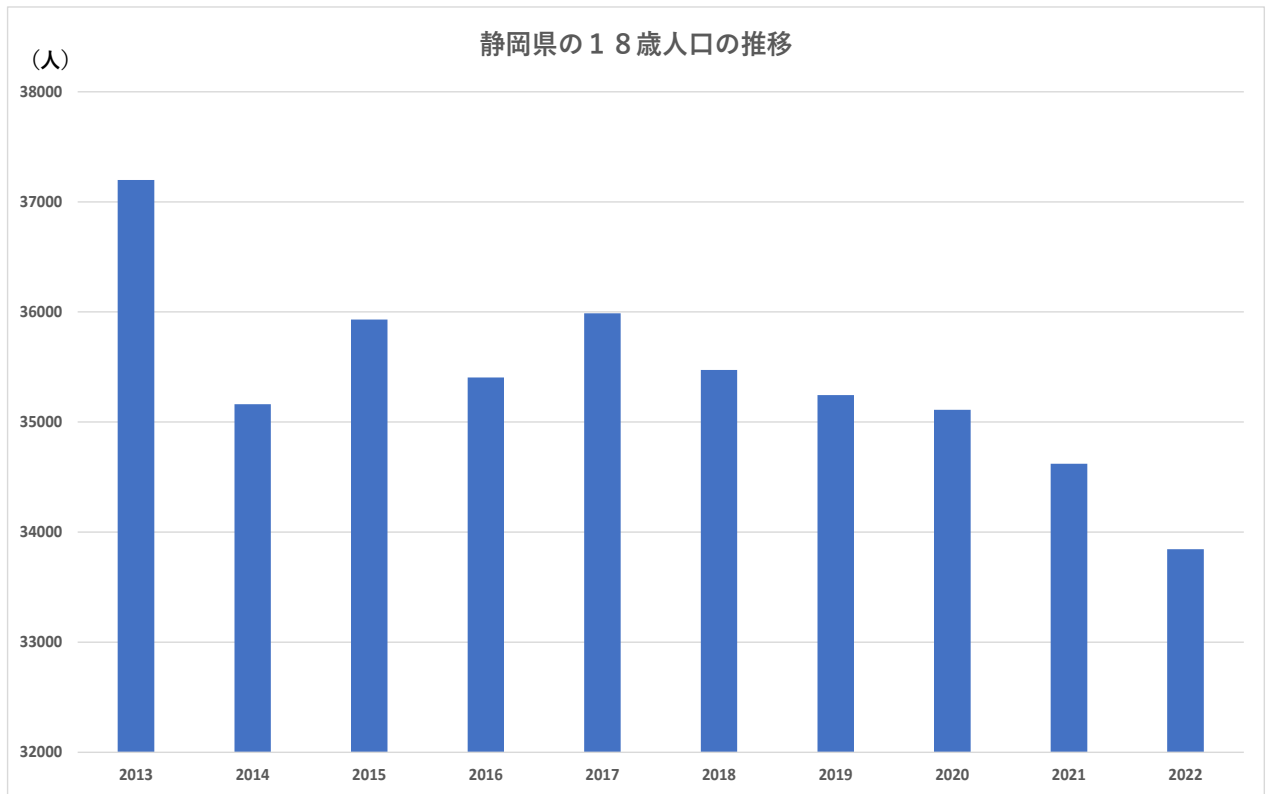
(2) 広報事業

チラシやホームページ、SNS 等により、コンソーシアムや県内大学についての情報発信を行った。

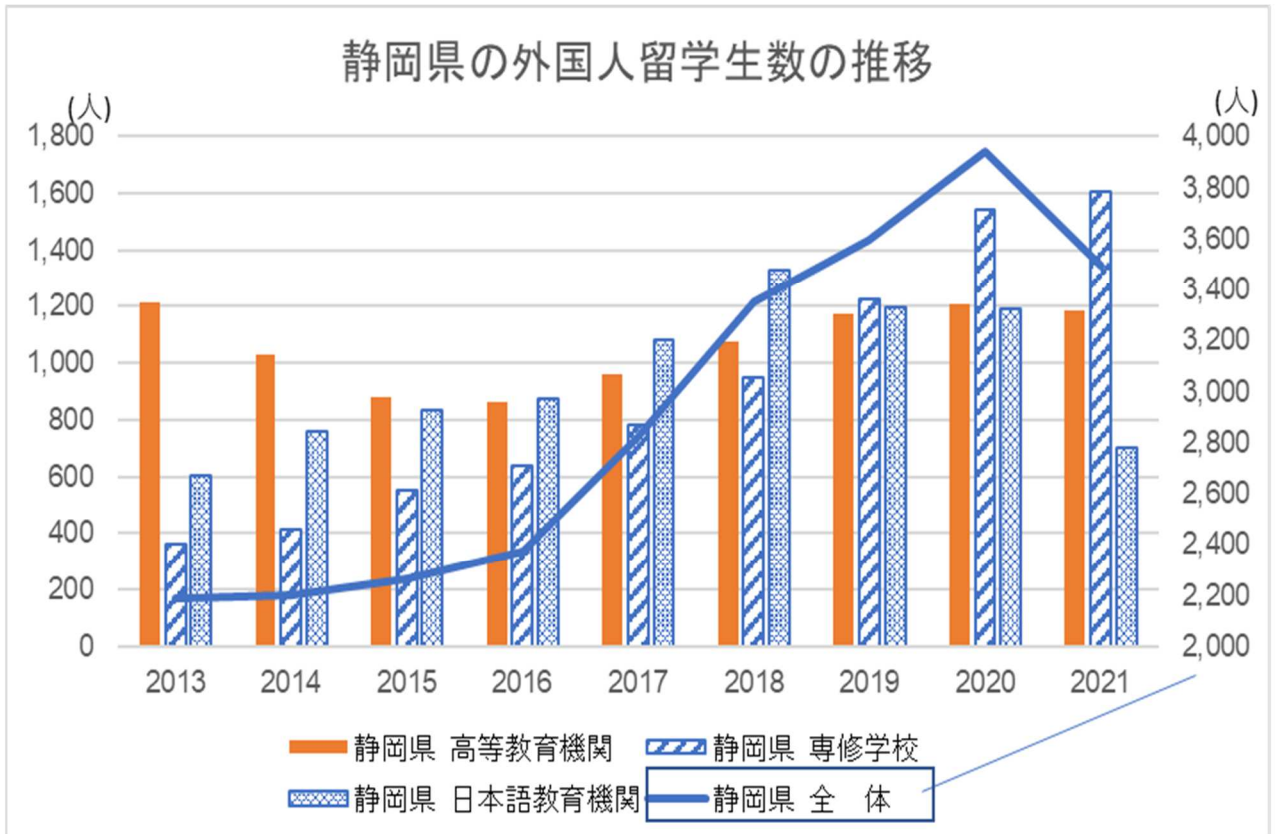
年度	内 容
H26	チラシ、冊子等 <ul style="list-style-type: none"> ・コンソーシアム紹介チラシ (2,000 部) ・「静岡キャンパスガイド 2014-2015」(40,000 部) インターネット環境 <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ開設 (主催事業、構成校・行政機関・団体等からの依頼情報の掲載)
H27	チラシ、冊子等 <ul style="list-style-type: none"> ・コンソーシアム紹介チラシ (2,000 部) ・「静岡キャンパスガイド 2015-2016」(20,000 部) ・「静岡留学ガイドブック」(2,000 部) インターネット環境 <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ (事業紹介、研修・講座・授業等開催情報の掲載) ・Facebook ページの開設 (投稿 450 件)
H28	チラシ、冊子等 <ul style="list-style-type: none"> ・「ANNUAL REPORT 2015 (年次報告書)」(3,000 部) ・「静岡キャンパスガイド 2016-2017」(18,000 部、HP に電子ブック版の掲載) ・「静岡留学ガイドブック 2016」(1,000 部) インターネット環境 <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページをリニューアル (事業紹介、研修・講座・授業等開催情報の掲載) ・Facebook (投稿 500 件)
H29	チラシ、冊子等 <ul style="list-style-type: none"> ・「ANNUAL REPORT 2016 (年次報告書)」(3,000 部) ・コンソーシアム紹介チラシ ・「静岡キャンパスガイド 2017-2018」(20,000 部、HP に電子ブック版の掲載) ・「静岡留学ガイドブック 2017」(500 部) インターネット環境 <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ (事業紹介、研修・講座・授業等開催情報の掲載) ・Facebook (投稿 500 件) ・Twitter アカウント開設 (投稿 120 件)
H30	チラシ、冊子等 <ul style="list-style-type: none"> ・事業概要紹介チラシ 2017 (4,000 部) ・「静岡留学ガイドブック 2018」(500 部、HP に電子ブック版の掲載) インターネット環境 <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ (事業紹介、研修・講座・授業等開催情報の掲載) ・Facebook (投稿 130 件) ・Twitter (投稿 50 件)

年度	内 容
H31	チラシ、冊子等 ・コンソーシアムパンフレット (3,000 部) ・「静岡留学ガイドブック」(500 部、HP に電子ブック版の掲載) ・静岡キャンパスマップポスター (22 部) インターネット環境 ・ホームページ (事業紹介、研修・講座・授業等開催情報の掲載) ・Facebook (投稿 130 件) ・Twitter (投稿 32 件)
R 2	チラシ、冊子等 ・コンソーシアムパンフレット (3,000 部) ・「SHIZUOKA CAMPUS GUIDE」(20,000 部) ・「静岡留学ガイドブック」(600 部、HP に電子データの掲載) ・静岡キャンパスマップポスター (20 部) インターネット環境 ・ホームページ (事業紹介、理事長挨拶・構成校代表者挨拶、研修・講座・授業等開催情報の掲載) ・Facebook (投稿 160 件) ・Twitter (投稿 75 件)
R 3	チラシ、冊子等 ・コンソーシアムパンフレット (3,000 部) ・「静岡留学ガイドブック」(600 部、HP に電子データの掲載) ・静岡キャンパスマップポスター (20 部) ・「Study in Shizuoka News Letter」(日本語版 300 部、英語版 300 部) インターネット環境 ・ホームページ (事業紹介、理事長挨拶・構成校代表者挨拶、研修・講座・授業等開催情報の掲載) ・Facebook (投稿 103 件) ・Twitter (投稿 19 件)
R 4	チラシ、冊子等 ・コンソーシアムパンフレット (3,000 部) ・「SHIZUOKA CAMPUS GUIDE」(20,000 部) ・「静岡留学ガイドブック」(1,300 部、HP に電子データの掲載) ・静岡キャンパスマップポスター (20 部、海外コーディネーターの在籍国インドネシア、ベトナム、スリランカへ送付) ・「Study in Shizuoka News Letter」(日本語版 1,500 部、英語版 500 部) インターネット環境 ・ホームページ (事業紹介、理事長挨拶・構成校代表者挨拶、研修・講座・授業等開催情報の掲載) ・Facebook (投稿 48 件) ・Twitter (投稿 34 件)
R 5	チラシ、冊子等 ・コンソーシアムパンフレット (2,000 部) ・「SHIZUOKA CAMPUS GUIDE」(20,000 部) ・「静岡留学ガイドブック」(1,000 部) ・静岡キャンパスマップポスター (20 部、海外コーディネーターの在籍国インドネシア、ベトナム、スリランカへ送付) ・「Study in Shizuoka News Letter」(日本語版 1,500 部、英語版 1,500 部) ・「Study in Shizuoka SNS カード」(1,000 部) インターネット環境 ・ホームページ (事業紹介、理事長挨拶・構成校代表者挨拶、研修・講座・授業等開催情報の掲載) ・Facebook (投稿 28 件) ・X (旧 Twitter) (投稿 31 件)

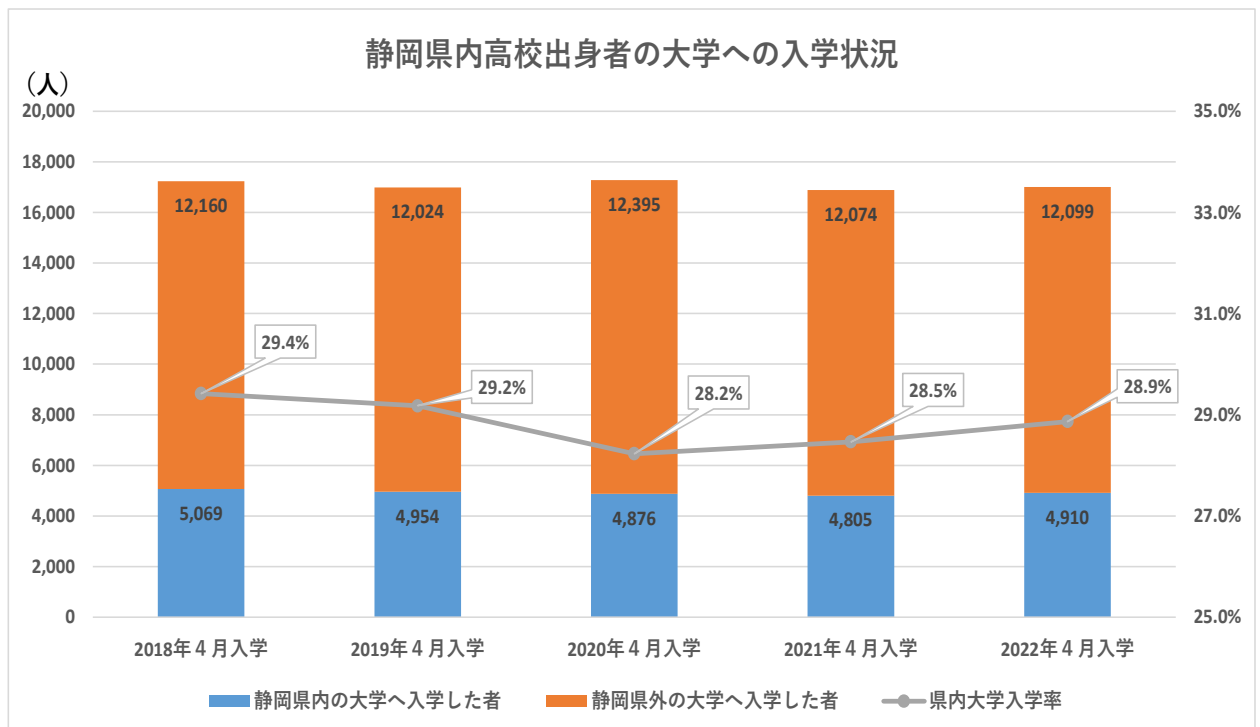
第3章 1 人口動態・進学率等の推移



【出典：文部科学省「学校基本調査」から作成】



【出典：2013～2019：静岡県留学生等交流推進協議会（静岡大学）調査
2020, 2021：（独）日本学生支援機構調査】



【出展：文部科学省「学校基本調査」から作成】

2 国や県の政策の方向性

中央教育審議会答申

令和5(2023)年3月8日付け「次期教育振興基本計画について(答申)」では、第3期計画期間中の課題として、高等教育機関に関するものが以下のとおり挙げられています。

- (ア) イノベーション人材を始めとする高度専門人材の不足や労働生産性の低迷及び博士課程進学率の低さ
 - a 社会人の学び直しが十分に進んでおらず、大学・専門学校等における社会人受講者数は、平成30年度から減少に転じている。
 - b 修士課程修了者の博士課程等への進学率は、平成29年度から令和4年度にかけて、9.2%から9.9%へと若干の増加がみられるが、中長期的に各分野を通じて減少傾向である。
- (イ) 全学的な教学マネジメントの確立に向けた具体的な取組の進展についての大学間の格差
 - a 平成29(2017)年度と比較し令和3(2021)年度に教育課程の共同実施制度を利用している大学数、大学等連携推進法人に認定された一般社団法人数、教育関係協働用拠点認定拠点数は、いずれも増加しているが、利用していない大学もある。
 - b 令和元年度の私立学校法改正において中長期計画の策定が義務付けられたことから、令和3年度時点において、私立大学の98.7%が中長期計画を策定しているが、未策定の私立学校もある。
- (ウ) COVID-19による留学等のグローバルな人的交流の激減
 - a 外国人留学生数については、令和元(2019)年度に約31万人となり、目標を達成したが、COVID-19の影響で、令和3(2021)年度には242,444人に減少した。
 - b 外国人留学生の国内就職率については、目標の5割を達成していない。

以上を踏まえ、今後の具体的な方策が以下のとおり掲げられています。

- (ア) 確かな学力の育成、幅広い知識と教養・専門的能力・職業実施力の育成
 - a 学修者本位の教育の推進
 - b 文理横断・文理融合教育の推進
 - c キャリア教育・職業教育の充実
 - d 学校段階間・学校と社会の接続の推進
- (イ) イノベーションを担う人材育成
 - a 探究・STEAM教育の充実
 - b 大学院教育改革
 - c 大学の共創拠点化
 - d キャリア教育・職業教育の充実
 - e 学校段階間・学校と社会の接続の推進
- (ウ) 生涯学び、活躍できる環境整備

- a 大学等と産業界の連携等によるリカレント教育の充実
- b 働きながら学べる環境整備
- c リカレント教育のための経済支援・情報提供
- d 女性活躍に向けたリカレント教育の推進
- e 高齢者の生涯学習の推進
- (エ) NPO・企業・地域団体等との連携・協働
 - a 企業等との連携・協働
- (オ) 指導体制・ICT環境の整備、教育研究基盤の強化
 - a 高等教育機関の連携・統合
- (カ) グローバル社会における人材育成
 - a 日本人学生・生徒の海外留学の推進
 - b 外国人留学生の受入れの推進
 - c 高等学校・高等専門学校・大学等の国際化

「教育未来創造会議提言」

令和4（2022）年5月10日付け「我が国の未来をけん引する大学等と社会の在り方について（第一次提言）」では、人材育成に関し、諸外国と比較した際の日本の課題として、以下が挙げられています。

- (ア) 少子化の進行による影響の大きさ
 - a 高等教育機関入学者の平均年齢が低いため、18歳人口の減少（2022年：112万人→2032年：102万人）に伴い、教育の規模が縮小
- (イ) デジタル人材の不足
 - a 2030年には先端IT人材が54.5万人不足
 - b 「デジタル田園都市国家構想」では、2026年度までに230万人の「デジタル推進人材」の育成を想定
- (ウ) グリーン（脱炭素）人材の不足
 - a 全国3分の2の自治体が全体方針・計画の検討に外部人材が必要と回答
- (エ) 理系離れと男女格差
 - a 高校の文理選択で理系を選択する生徒は、男子27%、女子16%。
 - b 大学の学部で理工系を専攻する学生は、男子28%、女子7%。
- (オ) 少ない修士・博士号の取得者
 - a 経営者の大学院卒は2割弱（米国企業は7割程度）。
- (カ) 世帯収入による格差
 - a 大学進学を希望する割合は、国公立を問わず世帯収入と比例
- (キ) 低調な人材投資・自己啓発
 - a OJT以外の人材投資が低調
 - b 社外学習・自己啓発を行っていない個人の割合が約半数（諸外国では2割以下）
- (ク) 進まないリカレント教育
 - a 仕事関連の成人学習参加率は、時間、費用等の制約から低迷

以上を踏まえ、今後の具体的な方策が以下のとおり掲げられています。

- (ア) 大学等の機能強化
 - a 成長分野への大学等の再編促進
DX、グリーン等の成長分野への再編促進など

- b 産学官連携強化
人的交流促進や地域連携プラットフォームや共創の場の構築推進など
- c 文理横断教育の推進
STEAM 教育の強化やデータサイエンス等の履修促進など
- d 卒業後の人材受入れ強化
修士・博士号の取得者の国家公務員における待遇改善など
- e 理工系や農学系の分野を始めとした女性の活躍促進
官民共同の修学支援や理系選択者の増加に向けた取組促進など
- f グローバル人材の育成・活躍促進
国際的な学生交流支援、高度外国人材の育成や子供の就学支援など
- g デジタル技術を駆使したハイブリッド型教育への転換
オンラインによる大学間連携の促進や大学のDX化など
- h 大学法人のガバナンス強化
学校法人運営の規律強化や運営基盤の強化など
- i 初等中等教育の充実
探究学習、STEAM 教育等、課題発見・解決能力を育む学習の充実など
- (イ) 学びの支援の充実
 - a 奨学金の拡充等による修学支援の充実や早期からの情報提供など
- (ウ) 学び直し（リカレント教育）を促進するための環境整備
 - a 企業・教育機関・地方公共団体等の連携による体制整備など

「地域連携プラットフォーム構築に関するガイドライン」

令和 2（2020）年 10 月に文部科学省高等教育局が示した同ガイドライン（副題：～地域に貢献し、地域に支持される高等教育へ～）では、高等教育機関を「地域の人材を育成し、地域経済・社会を支える基盤」であるとしつつ、様々な関係機関が一体となった恒常的な議論の場として、以下のような地域連携プラットフォームの体制を整備し、運営していくことを求めています。

このような取組により、大学等による地域社会の活性化への貢献が大学等の活性化につながり、さらに地方公共団体や産業界からの様々な支援に結び付くといった好循環が生まれることが期待されています。

- (ア) 体制整備
大学等、地方公共団体、産業界等が組織的に関与
- (イ) 運営
恒常的な運営体制（議論の場、企画立案、実行組織等の役割分担、事務局機能）を構築
- (ウ) 予算
参画組織からの会費徴収や—地方公共団体等からの受託による運営資金の確保によるほか、地方公共団体における国等の予算活用及び経済団体との協働等による戦略的な予算確保など
- (エ) 実行する事項
地域社会・地域産業のビジョン、地域の現状・課題を共有し、共通の目標・方向性、行動計画、高等教育のグランドデザイン等を議論した上で、以下に例示するような事項を実行
 - a 地域課題解決型の実践的な教育プロジェクトの提供

- b 産業振興、イノベーションの創出
- c 域内の大学等進学率や域内定着率の向上策
- d 外国人留学生の受入れや社会人向け教育プログラムの開発など

大学設置基準の改正

令和4(2022)年度の大学設置基準等の改正において、以下の点が改正となりました。

- (ア) 「専任教員」の概念を「基幹教員」として、教員数への算入が可能
 - 迅速で柔軟な学位プログラムの編成や、新たな学位プログラムの構築・再編が容易となった
- (イ) 指導補助者の授業への参画が可能
 - 学生への手厚い指導体制が確保され、教育の質が向上
- (ウ) 単位に必要な時間数の基準を授業方法別に定めた規定を廃止
 - 多様な学修評価方法での単位付与が可能
- (エ) 「4年以上在学」を卒業要件から削除
 - 9月入学者が7月に卒業後、海外の大学院に進学可能
- (オ) 教育課程等に係る特例制度の新設
 - 大学の創意工夫に基づく先導的な取組の促進

静岡県の総合計画

「静岡県の新ビジョン」後期アクションプランでは、“才徳兼備”の人づくりの「次代を担うグローバル人材の育成」において、以下が掲げられています。

現状と課題	高等教育機関が、高度な技術や専門的な知識を有する多様な人材を育成し、地域社会の発展に寄与していくためには、教育・研究機能の充実とその成果の地域還元を進めていく必要がある。
目 標	産業界や地方自治体と教育機関、教育機関同士の連携を推進し、高等教育機関における教育・研究機能を充実させ、地域に貢献できる人材を育成する。
成果指標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県内高等教育機関から海外への留学生数 1,000人 ・ 外国人留学生数 5,000人 ・ ふじのくに地域・大学コンソーシアム等による地域課題解決提案数(2022～2025年度)累計 100件 ・ 県内大学卒業就職者の県内企業等就職割合 61.2%(2022年)
活動指標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 海外教育機関に対する県内大学進学説明会参加者数 240人 ・ ふじのくに地域・大学コンソーシアム等への参加留学生数(2025年度)500人 ・ ふじのくに地域・大学コンソーシアム等による地域課題解決に取り組む学生団体数(2022～2025年度)累計 116団体 ・ 大学、産業界と協働して構築したりカレントプログラム数(2020～2025年度)累計4件

3 ふじのくに地域・大学コンソーシアムが実施する 各事業に対する会員の評価

	事業名	会員の評価
1	短期集中単位 互換授業	<ul style="list-style-type: none"> ・学生からの人気が高く、地域の魅力度向上につながっており、実施効果が高い。 ・全構成大学から授業の提供があるとよい。 ・抽選により履修不可となる希望者が出るため、クラス数や科目数を増やしてほしい。 ・講義前に予備知識を与える資料等を準備できると、より高い効果が見込まれる。 ・オンラインとの併用開始により、オンデマンド遠隔配信の活用等を通して、幅広い分野の授業が実施でき、より多くの大学の単位互換授業の提供ができる。また、遠隔地の学生も参加できる環境づくりにつながる。
2	小中高大連携 推進事業	<ul style="list-style-type: none"> ・高校側に参加意欲があり、互いに有意義で満足度が高く、win-winの関係になっている。 ・各学校で地域や大学、企業等と連携した教育活動が行われている中、本事業は社会貢献の一環として意義が大きい。 ・探究授業に特化した事業を推進してほしい。 ・大学と小中高等学校との連携は、教育効果の点でも、進学意欲や目的意識の向上という点でも非常に有効であるため、今後も継続を希望する。また、今後の教育業界において、小中高大の連携推進が急務の課題の一つに挙げられている。
3	西部地域連携 事業	<ul style="list-style-type: none"> ・役割を持つ大学の負担が大きく、時期によっては業務のやりくり に支障が生じる。 ・ICT等を活用した事業の横展開が課題。 ・事業開始から相当の時間が経ち、事業の目的や内容、コンソーシアムとしての位置付けの再検証が必要。 ・県内中高生にも開放し、県内大学の魅力の発信を強化したい。 <p>【共同授業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共同授業は他分野を学べる点で学生の満足度が高い。大学間で受講学生数に差があるのが改善すべき点である。 ・市民の生涯学習を含め受講生の知識向上に寄与した。 <p>【FD情報交換会事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各大学職員相互の一体感があり、課題点について、各大学の事例を交えて意見交換する機会となった。
4	共同研究助成 事業	<ul style="list-style-type: none"> ・他機関との共同研究で新しい知見が得られた。 ・研究成果の地域への還元ができた。

5	ゼミ・研究室等地域貢献推進事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業で関わりのあった大学生が卒業後に地域に移住するなど、地域・社会貢献推進に目に見える効果があった。 ・ 大学として地域課題に取り組むのに有効な事業である。 ・ 研究推進や様々な能力を養う機会として、学生への教育効果が高い。 ・ 地域住民・団体とゼミ・研究室との交流が創出され、地域活性化に繋がる成果物ができた。 ・ 研究の枠に囚われず、商品開発まで実施できた。 ・ 自治体の課題について、大学生の視点からの解決策を知り、業務の参考とすることができた。また、大学がない自治体でも、毎年様々な課題を通して、大学・学生とつながることができた。 ・ 採択数が増えるとさらに効果が高まる。 ・ 自治体等が課題提出前に大学側と調整しないとマッチングが難しい。初提出課題がマッチングしやすければ、事業の有効活用が進む。 ・ 成果物作成に向けては、市・地域の側と大学・学生側の双方の考えを整理してビジョンを形成することが必要である。 ・ 事業開始の時期を早めた方が事業展開の幅が広がり、有意義な研究となる。 ・ 本事業を継続していくことで、事業目的である地域の魅力認知度の向上について、中長期的に効果を測定していくことができる。 ・ 大学や各機関と「指定課題」と「自由課題」に区別した意図や研究の進捗状況などを共有することで、より意思の疎通が図れる。
6	国際交流事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 忙しい留学生には県内を観光する貴重な機会であり、自然、文化、産業等に触れ、地域をよりよく知る機会となっている。 ・ 留学生が他の高等教育機関の学生と知り合うなど、人的ネットワークを広げる機会となっている。 ・ 企業等にとって、大学との連携を取れる貴重かつ有効な機会である。 ・ 日本語を話せない留学生の通訳や申込みなど通訳の確保や資料の準備、経費などがかかる。
7	留学生受入促進・支援事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 留学生受入（入口）から就職（出口）まで、一貫した支援が行われている。 ・ 大学進学フェアは、学生からの質疑応答に大学職員が対面等で対応し、進学に結び付いている。 ・ ふじのくに留学生就職促進プログラムの実施等により、県内への就職促進に一定の効果があった。 ・ 留学生就職支援講座は、継続して事業を行うことで効果が出ている。 ・ 留学生が所属する全高等教育機関の関与が課題である。 ・ 参加者の確保は、大学の協力や単位互換などがあれば、留学生の参加が促される。

8	グローバル人材育成事業	<ul style="list-style-type: none"> ・実施成果があった。 ・県内への効果・還元が薄く、地域への貢献が課題である。
9	合同FD・SD研修会事業	<ul style="list-style-type: none"> ・事務職員の能力向上や自己啓発に効果があった。 ・職員のみならず教員にも関心の高いテーマ設定や、オンライン、アーカイブ視聴や事前案内の工夫など、運営に関する配慮があり、参加希望者が増加した。 ・他大学との問題意識の共有が図れ、自校の課題なども見つかった。 ・オンラインは参加しやすく、スキルアップや情報共有も図れるが、他大学の職員と交流する貴重な場となる点では、対面開催が望まれる。
10	地域研究成果発信事業	<ul style="list-style-type: none"> ・自治体と大学との研究成果が共有され、また、大学間の交流や自治体のPRの場としても有効だった。 ・多くの学生の考えを聞く機会となり意義があった。また、学生のプレゼン能力の向上にも寄与した。 ・ハイブリッド開催において、オンライン発信はチャットを通じた質問で視聴者の発表への反応が分かって良かった。対面発表は、撮影に重きが置かれ、他の発表者からの質問が受けにくい体制になっていたのが残念だった。 ・双方向性のある対面開催を期待する。交流会開催も含め、今後の運営方法が課題である。
11	広報事業	<ul style="list-style-type: none"> ・大学との相互リンク等で、コンソーシアムの活動周知につながっている。 ・コンソーシアムの存在意義を知らない大学職員や学生も多い。認知度向上に向け、コンソーシアムとは何かから周知し、賛助会員募集ページを作成するなど、パンフレットやHPの内容改善が必要である。 ・HPは認知度が低いため、Instagram、TikTok等の媒体の検討も必要である。また、SNSには流行の変遷があるため、特に留学生向けには様々な媒体でのアプローチが必要になる。 ・県内の大学の情報を全国に、県内での就業・就職を視野に入れられる情報を静岡県内で学んでいる学生に発信したり、大学間で自由な交流ができる工夫をしたりすることを期待している。

(令和5年2月実施アンケート回答から抜粋・要約)